



町営住宅に住みませんか？

野津・若葉・桜ヶ丘団地 補充入居者募集

この募集は、町営住宅に空室が出た場合に備え、入居予定者をあらかじめ決めるために行うものです。今回の募集で審査を行い、補充入居者としての順位を定め、空室が生じた住宅に順次補充します。

◆町営住宅とは

◎小学校就学前の児童
◎その他、公営住宅法及び氷川町営住宅条例に基づき
内所得の人たちに、低廉な家賃で供給するために、町が国の補助を受けて建設した住宅です。

◆申込資格

- ①同居親族(または同居しようとする親族)があること。
- ②国税・地方税・町税などを滞納していないこと。
- ③過去1年間の世帯所得が月額15万8千円以下であること。
- ④納税証明書(平成29年分)または未納のない証明

◆必要書類

- ①町営住宅入居申込書
- ②世帯全員分の住民票の写し(続柄の記載があるもの)
- ③所得証明書、または町民課税事項記載証明書(平成29年分)
- ④納税証明書(平成29年分)または未納のない証明

※入居者または同居者に、次に掲げる人がいる場合は、世帯所得の基準額が月額21万4千円となります。
◎障がい者手帳をお持ちの人
身体1級〜4級
精神1級〜2級

◆申込先

建設下水道課および宮原振興局総務振興課
※提出時に聞き取り調査を行いますので、申込者ご本人かご家族の人がお越しください。

◆申込期間

7月2日(月)〜8月10日(金)

◆募集要項および申込書類

建設下水道課および宮原振興局総務振興課にあります。また、氷川町のホームページからのダウンロードも可能です。

問 建設下水道課管理係

☎52・5856



	野津団地	若葉団地	桜ヶ丘団地
行政区	北野津	今	桜ヶ丘
校 区	竜北東小学校/竜北中学校	宮原小学校/氷川中学校	宮原小学校/氷川中学校
住宅概要	平成6年〜8年建設 木造2階建(庭付き) 3LDK 約74㎡	平成15年建設 耐火構造2階建3DK 約80㎡ オール電化	昭和57年〜62年建設 簡易耐火構造2階建(庭付き) 3DK 約61㎡
家賃(月額)	19,500円〜42,200円	27,900円〜55,200円	13,500円〜30,600円
共益費(月額)	300円	2,000円	なし
駐車場(月額)	1台目500円/2台目2,000円	1台目500円	1台目500円

※家賃は、入居世帯全員の収入、世帯構成によって決定されます。



▲野津団地



▲若葉団地



▲桜ヶ丘団地

町民文化

短歌

大楠の若葉茂れる三神宮で
級友らと集い傘寿を齋う

北野津 宮本 末秋

母は「サキ」

曾孫は「咲樹」と名の縁

流るる水は子に繋がる

西野津 古崎スエノ

成長と共に上りゆくおねだりの

我のサイフも軽く成りゆく

南鹿野 尾崎 京子

トラクターの後ろに歩む白鷺の

餌を求める白き群

西野津 古崎 栄子

やがて来る己が運命肥育牛

知る由も無くひたすら餌を

吉 本 橋村 正之

不知火の海風吹けばさやさやと

氷川の里に蘭のはなぞ散る

北野津 井田 道寛

清濁を合はせ穏やかに天草の

海は旅人の心和ませ

吉 本 高橋 澄子

若葉風発心抱きて丘陵に佇つ

この世の流れ日々に輝やけ

桜ヶ丘 宮崎敬四郎

若き日の面影あれど眼ぢからなく

不精髭さえこころもとなし

西上宮 村内 一誠

人気なき庭のひまわり

堂々と空に向けて今年も元氣

上鹿島 前村 俊子

俳句

年ふけて肌はがさがさ鉢の藤

北野津 宮本 末秋

孫想い曾孫想いて梅漬ける

西野津 古崎スエノ

葉先より露の光りて青い空

南鹿野 尾崎 京子

見にいけぬ運動会の気にかかり

町 香山菊童子

梅千切る指先香る透き間南風

西野津 古崎 栄子

川風や高野道の庭の七変化

北野津 井田 道寛

雨の朝愈紫陽花艶を増し

吉 本 高橋 澄子

天網をくぐり安堵の蝶の昼

桜ヶ丘 宮崎敬四郎

妹逝きて古都は遙かに額の花

桜ヶ丘 吉田 照子

紫陽花に触れてもみよや庭明り

町 田中 澄子

息災に暮せる初夏の太極拳

桜ヶ丘 宮崎トシ子

枇杷熟る庭を横眼の散歩かな

西上宮 村内 一誠

早苗たち緑の針は天を突く

上鹿島 前村 俊子

三島由紀夫…
生い立ち&アラカルト

法道寺 本田 花風

三島を語るに作品の側面に多くの女性の存在が関係する。昭和十九年、邦子(仮面の告白の園子)を友人三谷信の家で、隣室から聞こえるピアノの音から知り関心をもって、以来、由紀夫の「心の中にこのピアノの音はそれから五年後(同前)まで鳴りつづけた。二十年、東京帝国大学勤労報国隊の一員として動員され由紀夫は遺言状を書き、遺髪と遺爪を用意し遺言状の最後は「天皇陛下万歳」。しかし、徴兵検査で軍医の誤診と由紀夫の機転で肺浸潤と診断され即日帰郷を命じられる。元来の病弱が幸いしたのである。

昭和二十年終戦、聖心女学校在学中の妹美津子は腸チフス罹り他界、号泣した由紀夫は「私は妹を愛してゐた。ふしぎなくらゐ愛してゐた」

妹の死と、邦子の結婚と、二つの事件が、私の以後の文学的情熱を推進する力になつたと思われたい。(終末感からの出発…昭和二十年の自画像)

由紀夫の誕生日一月十四日は我輩花風と同じ日、由紀夫の歳は昭和の元号年に二年加算すればよいので年齢差は十八年、我が生まれた時、十六歳です。「花さかりの森」を執筆していたのである。

小説を書く環境、能力がいかに優れていたとしても、比較すること事態に無理である。人間の違いはこれほどのものが生じるのは、たとえ、山中慎哉の功績は偉大であるが、三島がノーベル賞を得なかつたのは不公平に感じるほど作品は燃え滾っている。ただ、死するときは彼の目は若かりし頃の澄み切った目ではなかったと貞子は言っている。

(続く)